震災から一年　話してくれた今の思い―

5世帯14人が入居する旧久慈水産高校敷地内の応急仮設住宅（玉の脇仮設住宅）

9世帯23人が入居する旧長内中学校敷地内の応急仮設住宅（長内仮設住宅）

毎日を過ごす家、お気に入りの家具や服、思い出の品や車、生活を支える仕事など…。同じ久慈市の中に、大津波で〝日常の生活〟を失った人がいます。大切な家族まで奪われた人もいます。
今回、応急仮設住宅に入居する２人の方が今の思いを話してくれました。大きな被害にあった人たちは、不安や悩みを抱えながらも一歩ずつ前に進もうとしています。震災からの一年と、これからの生活やまちに思うこと―。同じ久慈市民として、２人の思いを感じ取ってほしいと思います。

いずれは生まれた土地に。願いは、娘や孫が犠牲にならない将来のまち

長内仮設住宅　**橋場　剛**さん（湊町）

さまざまな支援もいただき、仮設住宅にもなれて、今は生活も少し落ち着いています。
何もかも津波で流されてしまいましたが、家族4人とも命は無事。何とか私も仕事がつながっていますし、2人の娘も職場や学校で頑張っています。
ただ、今の場所は生まれ育った土地ではありません。どうしても自分が暮らしてきた湊町が恋しくなるときがあります。今住んでいる住宅は、いつか出なければなりません。いろいろと考えますが、海から離れた場所にするにしても、いずれは湊町に戻りたいと思っています。
あの日から一年がたとうとする今、正直、震災に対する温度差を感じるときがあります。津波は、いつか必ず襲ってきます。被害がなかった人にも、この震災を忘れないでほしいです。
今、思うことの一つは、将来の防災です。娘や孫などの世代が津波の犠牲にならないよう、考えたまちづくりを進めてもらえることを願っています。

人の励ましが心の支えに。まだ、これから。震災を忘れないでほしい

玉の脇仮設住宅　**外野トシ子**さん（長内町）

久慈大火でも被害にあい、家を失うのは今回で二度目。逃げる準備はしていましたが、想像以上に大きな津波でした。津波にのまれ、建物のガラスが割れる音が、今も耳に残っています。
泣く暇もないような一年でしたが、美容師の仕事仲間や、店の再開を待ってくれているお客さん、地域の人などの励ましに支えられ、生活は苦しくても心は折れずにすんでいます。
津波の心配のない場所に家を建て、また美容院を開きたいと思っていますが、不安は尽きません。お金を借りられても返せるかどうか。正直あと10歳若ければ、まだよかったと思います。
将来に悩みや不安を抱えている人は周りにもいます。がれきが撤去され、浜や町並みはきれいになってきましたが、生活の立て直しは、まだこれからです。
震災で、あらためて家や物、人の大切さなどに気づかされました。被害にあわなかった人にも津波の怖さや思いやりなどの大切さを忘れないでほしいです。

胸に刻み、心を一つに

東日本大震災による、すさまじい惨状と生活の混乱。被害にあった人だけでなく、全ての人が恐怖や不安、人や物などの大切さを痛いほど感じたはずです。
あれからもうすぐ一年。がれきは撤去され、電気や電話は通じ、水道も出ます。スーパーなどにも物が充実し、燃料もあります。被害が少なかった人の生活は、ほぼ震災前に戻ったことでしょう。そんな中、震災で痛いほど感じたはずの津波の怖さ、人や物の大切さは、どれだけ胸に刻まれているでしょうか。
人は、生きていくために、つらい記憶を無意識に忘れようとするといいます。しかし被害にあった人の中には、忘れたくても忘れられない人が大勢います。それは、震災が「過ぎ去ったこと」ではないからです。今はまだ再起に向かっている途中。本当の復興と生活の立て直しは、まだ先のことなのです。
この一年を振り返ると、しっかりと支え合い、災害に備えてきた私たちの姿がありました。不安を抱えながらも再起を目指す人たちを支え、いつの日か必ず襲ってくる津波の犠牲にならないためには、震災と、この一年の歩みの中で感じてきたことを忘れてはいけません。
大切なのはこれからです。同じ久慈市民として胸に刻み、心を一つにし、みんなで前に進んでいきましょう。

時間がたち、
復旧・復興が進み、
たとえ、被害を伝える光景が
目には見えなくなったとしても
私たちは忘れてはいけない。
津波の怖さと備える意識、
そして、支え合うことの大切さを。
再起に向けて立ち上がる人たちを、
立ち上がろうとする人たちを
同じまちに住むものとして、
しっかり支えていきましょう。
復興を、みんなが実感できる
その日まで―。

鎮魂と復興を祈念し、3月11日に黙とうを

3月11日(日)14時46分、市営魚市場前で、黙とうと献花を行います。
犠牲になられた方の鎮魂と、まちの復興に向け、みんなで祈りをささげましょう。

■14時30分までに会場にお集まり願います
■献花用の花は各自持参願います
■駐車場に限りがありますので、相乗りなどでご来場願います